



ヤングアダルト（YA）向けパスファインダー お金のことについて調べる

いつも私たちの身近にあり、なくてはならないものでもある、お金。何気なく使っているけれど、あらためて、「お金って何なの？」と考えてみると、お金の歴史や仕組み、お金の稼ぎかたなど、多くの問いに気づきます。そんな素朴な「？」のこと、考えてみませんか。

★分類番号の横に「児」とあるのは <児童資料>、
無表記は <一般資料> を示しています。

★各資料の詳細は、蔵書検索システム（OPAC）でご確認ください。
(所蔵館によって、出版年や分類番号が異なる場合があります)

はじめに

- 本で調べたことをまとめるときは、どれが自分の考えで、どれが他の人の考えかがわかるように、使った本の名前やその本を書いた人の名前を、「参考にした本」として書いておくようにしましょう。
- お金や経済に関わることは、時代の流れとともに急速に変化していきます。本を調べるときは、その本が刊行された年も必ずチェックしましょう。

① テーマから、たくさんの「問い」を見つけよう

まずは、お金に関する「？」のつく文章を、思いつくまま書き出してみましょう。ここではたとえば、以下のような問いを立ててみました。

（ マークは、それぞれの問いに関わる「キーワード」です）

Q1 お金にはどんなものがあるの？（P.4） →  貨幣

Q2 お金が回る仕組みってどんなもの？（P.5） →  経済

Q3 どうして税金なんてものがあるの？（P.6） →  税

Q4 お金の賢い使いかたって？（P.7） →  経済

Q5 もしもお金がなかったら？（P.8） →  貧困・福祉

コラム 「お金」に関する絵本・文学作品（巻末）

② キーワードに関する本が、どこにあるか調べよう

図書館の本は、本の主題を示す分類番号に沿って並べられています。
今回は、次のようなキーワードに関わる分類の本棚に行ってみましょう。

★ 今回のキーワードと、関係する本の分類番号 ★

貨幣／経済	：	330 番台
税	：	340 番台
仕事（労働）	：	360 番台
貧困・福祉／消費者問題	：	330 番台、360 番台

ワンポイントアドバイス

「経済」って、何だかとっつきにくい！ と思っている人におすすめなのが「新書」です。「新書」の中には、専門的な分野のことを、その道の第一人者がコンパクトにわかりやすく解説しているものがたくさんあります。

新書は上で説明した分類番号の棚ではなく、別の棚にまとめて置かれている場合もありますので、ぜひそちらも合わせて見に行ってみてください。



★杉並区立図書館で採用している分類やラベルのルールについて、さらに詳しく知りたいときには、図書館ホームページ（トップ>パスファインダー）の「パスファインダー 基礎編その1」のページをご覧ください。

★目的の本が見つからないときは、図書館のスタッフにお声がけください。

③ 蔵書検索システム（OPAC）で本を調べよう

図書館の本は、蔵書検索システム（OPAC）を使って調べられます。
OPACは、図書館内の端末機か、図書館ホームページから利用できます。

<図書館内の端末機から検索するとき>

ここに、お好みの「キーワード」
を入れてください。

<図書館ホームページから検索するとき>

詳しい使いかたはこちら

ここに、お好みの「キーワード」
を入れてください。

★OPAC の詳しい使いかたを知りたいときは、画面右上の「？」マークのところに
あるヘルプページ、または、図書館ホームページ（トップ>パスファインダー）の
「パスファインダー 基礎編その1」のページをご覧ください。

Q1 お金にはどんなものがあるの？ → 貨幣

まずは、お金を単純に「モノ」として見てみるところから始めましょう。コインやお札には、その国の文化や歴史が映し出されています。

『ビジュアル 日本のお金の歴史（全3巻）』 井上正夫（1巻）、岩橋勝（2巻）、草野正裕（3巻）／著、 ゆまに書房／発行、2015～16年（児330 ヌ） 飛鳥時代の和同開珎から現代の貨幣まで、日本で使われてきたお金を豊富なカラー図版とともに紹介。その変遷の背景にある経済の仕組みも理解できる。	
『国際理解に役立つ 世界のお金図鑑（全3巻）』 佐藤英人／協力、平田美咲／編集、汐文社／発行、 2013年（児330 ヒ） 100以上の国の紙幣を並べ、そのデザインの由来を説明した本。お札に肖像が描かれている著名人の解説などを通して、国や地域ごとの事情がわかる。	
『明日話したくなるお金の歴史』 阿部 泉／執筆・監修、清水書院／発行、 2020年、(337 ア) 古代から現代までの日本のお金の歴史を豊富なカラー図版とともに紹介。お札になった偉人たちの人物伝も紹介されていて、思わず誰かに話したくなるお金にまつわるエピソード満載の一冊。	

Q2 お金が回る仕組みってどんなもの？ → ♀ 経済

次に、お金が回る仕組みや、ものの値段が決まる仕組みなど、「経済の基礎」を学べる本をご紹介します。

『15 歳から身につける経済リテラシー』

岡野進／著、朝日学生新聞社／発行、2017 年（330 オ）

経済における企業・家計・政府の役割、基本的な用語の説明、2008 年以降の世界経済危機の背景から、年金・介護・待機児童などの近年の社会問題まで、主なトピックスを広く扱う。図も多くわかりやすい。

『中学生の質問箱 お金ってなんだろう？ あなたと考えたいこれからの経済』

長岡慎介／著、平凡社／発行、2017 年（YA 330 ナ）

経済や金融の基礎をふまえた上で、資本主義の仕組みと、今なぜそれが行きづまっているのかを解説。未来の経済の仕組みのヒントとして「イスラーム経済」の知恵を紹介する。目からウロコの経済入門書。

『いくらかな？ 社会がみえるねだんのはなし（全 6 巻）』

藤田千枝／編集、大月書店／発行、2017～2018 年（児 330 フ）

キリンは一頭 4 千万円、ではライオンは？ などなど、ふだんあまり考えないモノの値段から、その裏にある社会と経済のカラクリを読み解いていく。「自然と生きもののねだん」「戦争と安全のねだん」など。

『信じられない「原価」 買い物で世界を変えるための本（全 3 巻）』

こどもくらぶ／編集、稲葉茂勝／訳・著、講談社／発行、2015 年
（児 360 イ）

私たちが手にするすべての商品には、さまざまな原材料費や人件費＝「原価」がかかっている。でもその原価は、本当に適切なんだろうか？ 経済の発展を支える、見えにくい問題を取り上げるシリーズ。

Q3 どうして税金なんてものがあるの？ → ♀ 税

大人も子どもも、さまざまな形で国や地方自治体に税金を払っています。税金は、誰のために、どこでどうやって使われているのでしょうか？

『高校生のための税金入門』 小塚 真啓／編著、三省堂／発行、2020 年（345 コ） 買い物したら払う消費税、アルバイトのお給料から引かれる所得税、これって何故払うの？そんな税金にまつわる疑問をわかりやすく説明。巻末には役立つネット情報や参考図書の紹介もあり。	
『13 歳からの税』 三木義一／監修、かもがわ出版／発行、2020 年（345 カ） 税の仕組みや集め方・使い方、種類などの基礎知識に加えて、企業の税金逃れや、消費税の軽減税率の問題なども解説する。私たちの生活を守る税の制度を知り、見張っていくために読みたい入門書。	

杉並区の税金はどう使われているの？

杉並区では、区税のあらましをまとめた『わたしたちの区税』（杉並区区民生活部課税課／編集・発行、年刊、S11.34 カ）という資料を、ホームページ（<https://www.city.suginami.tokyo.jp/index.html>）で公表・配布しています。たとえば、区の税収を 10,000 円と考えたとき、「福祉の充実・健康を守る」ためには 5,953 円、「学校教育の充実、生涯学習」のためには 1,332 円、「環境保全・清掃・リサイクル」のためには 460 円が使われている（令和 2 年度版、P.10～11 より）、といったことがわかります。

Q4 お金の賢い使いかたって？ → ♀ 経済

できるだけ賢く使いたいお金。自分のため、他人のために、どんな使いかたをすればいいのか、アドバイスしてくれる本もたくさんあります。

『12歳の少女が見つけたお金のしくみ』

泉 美智子／著、宝島社／発行、2020年（331イ）

キャベツの値段が時期によって違うのはどうして？ 新発売のCDや本は値引きしないの？ 身近なものの値段からお給料の話まで、お金にまつわる疑問を、マンガも交えて楽しく解き明かしてくれる。

『北欧式 お金と経済がわかる本 —12歳から考えたい9つのこと』

グンヒル・J.エクルンド／著、枇谷 玲子／訳、氏家 祥美／監修、
翔泳社／発行、2019年（330エ）

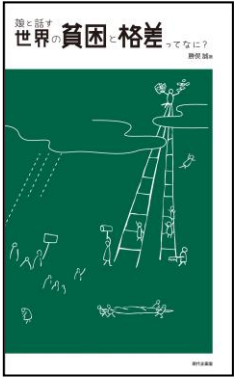
ノルウェーの経済アドバイザーの著者が、「稼ぐ」、「借りる」、「貯める」、「カード払い・ネットショッピング」など、9つのキーワードを元に、お金との上手なつきあいかたを解説する。ノルウェーと日本の制度の違いも比較されており、それぞれの社会の課題も見えてくる。

「寄付」が世の中を変えていく？

近年増加している「クラウドファンディング」は、インターネットなどを通じてお金を寄付することで、誰かの願いやアイデアの実現を助ける取り組みです。日本では2011年に法律が改正され、寄付先次第では最大で寄付金の約50%が税額から控除されるという画期的な税制も導入されました。『寄付金・クラウドファンディングの集め方』（佐藤しもん／著、ぱる出版／発行、2020年、336.8サ）など、実際に行動したい人のための手引書も出ています。

Q5 もしもお金がなかったら？ → 貧困・福祉

最後に、「もしもお金がなかったら（貧困）」と、「そんなとき助け合うための仕組み（福祉）」について考えるための本をご紹介します。

『シリーズ・貧困を考える（全3巻）』 池上彰／監修、稲葉茂勝／著、ミネルヴァ書房／発行、2017年（児360イ） 国や地域、また時代によっても異なる「貧困」の姿。最近では、世代間の感覚にも隔たりがある。そんな様々な角度から、「貧困」の実像に迫るシリーズ。 「世界の貧困・日本の貧困」「昔の貧困・今の貧困」「子どもの貧困・大人の貧困」の全3巻。	
『娘と話す 世界の貧困と格差ってなに?』 勝俣誠／著、現代企画室／発行、2016年（333力） 世界に豊かな国と貧しい国があるのはなぜか。格差をどうなくしていけばいいのか。国際政治経済学者の父が、高校生の娘からの率直な問いかけに答える形で、この人類の大問題について共に考えていく。	
『本当の貧困の話をして 未来を変える方程式』 石井光太／著、文藝春秋／発行、2019年（368イ） 貧困と犯罪、日本と海外の貧困の根深いつなかりを読み解きながら、貧困が人の心をどのように蝕み、連鎖していくのかを解説。特別な力など持たない私たちが、それを止めるための方法も提案する。	

『幸せのための経済学 効率と衡平の考え方』

夢沼宏一／著、岩波書店／発行、2011年（A 岩波ジュニア新書）

「経済学」は、本来お金もうけの学問ではなく、「人々の福祉を高めること」を目指す学問である。そんな原点に戻り、皆がよりよく生きられる社会のありかたを、理詰めで考えていく一冊。

『世界がもし100人の村だったら お金篇』

たった1人の大金持ちと50人の貧しい村人たち』

池田香代子／著、C.ダグラス・ラミス／対訳、マガジンハウス／発行、2017年（330イ）

「100人の村では1人の大金持ちの富と99人の富がだいたい同じ」——信じられないようだけれど紛れもないこの世界の事実を、100人の村にたとえることで明らかにするシリーズの「お金篇」。自分は100人のうちのどの立場で、どう行動すべきかを示唆してくれる。

『世界でもっとも貧しい大統領 ホセ・ムヒカの言葉』

ホセ・ムヒカ／述、佐藤美由紀／著、双葉社／発行、2015年（519ム）

2012年6月にブラジルで開催された「持続可能な開発会議」（リオ会議）でのスピーチで、世界に衝撃を与えたウクライナの大統領。人の幸福のありかたを根本から問う、その思想と半生をつづった書。

お金のトラブルに巻き込まれたら？

近年「携帯ゲームで課金をしすぎて、高額な請求が来た」など、中高生でもお金のトラブルに巻き込まれることが増えました。『まんがと図解でわかる裁判の本 4 お金のことで困ったら』（山田勝彦／監修、岩崎書店／発行、2014年、児320マ）には、困ったときはもちろん、いざ困る前に、ぜひ知っておきたい情報が満載です。



④ インターネットで調べてみよう

世の中のお金に関する仕組みは、激しく移り変わっています。インターネットを上手に利用して、最新の情報もチェックしてみましょう。

企業・起業について	Yahoo! ファイナンス 企業情報 (https://profile.yahoo.co.jp/)	ヤフーの企業情報データベース。身近な人が勤めている企業や、CM で見たことのある企業を調べてみると、いろいろな発見があるかも。
	J-Net21 (中小企業・創業予定者 支援サイト) (https://j-net21.smrj.go.jp/)	たとえば「将来カフェを開きたい」と思ったときに必要な資格や許可、経営の基礎などを、具体的にガイドしてくれる。「起業・創業に役立つ情報」のページを見てみよう。
税金について	国税庁 税の学習コーナー (https://www.nta.go.jp/taxes/kids/index.htm)	国税庁ホームページ内にある、税金について学べるコーナー。小学生向けの入門編、中学生向けの発展編、高校生向けの応用編などがある。
	財務省キッズコーナー ファイナンスらんど (https://www.mof.go.jp/kids/2018/)	財務省ホームページ内にある、子ども向けのコーナー。アニメやルーレットのゲームなどを通じて、税金について理解できる。

コラム 「お金」に関する絵本・文学作品

過去や現在の経済の仕組みは経済学の本から学べますが、私たちが将来どんな世の中を作っていけばいいかは、経済学からだけではわかりません。ときには、こんな絵本や文学でイメージを広げてはいかがでしょう？

●『買物絵本』

（五味太郎／著、ブロンズ新社／発行、2010年、EY）

お金で買えるものは、おいしさ、たのしさ、うれしさ、ついでに虫歯……？ などなど、「お金で買えること」について、哲学的に考察する絵本。



●『お金物語 中学生までに読んでおきたい日本文学 4』

（松田哲夫／編集、あすなろ書房／発行、2010年、児918ア）

「お金」の問題を扱っていたり、「お金」について面白い見かたを示してくれたりする文学作品のアンソロジー。星新一、太宰治、森鷗外などの作品を収録。



● ミハエル・エンデの諸作品

（『エンデ全集 全19巻』：岩波書店／発行、1996～98年、948工）

『モモ』や『はてしない物語』で有名なエンデの作品には、現代の経済システムへの数々の問いが秘められています※。そのような視点からエンデの作品を読み直してみると、また違った面白さが見えてくるのではないのでしょうか。

※『エンデの遺言 根源からお金を問うこと』（河邑厚德、グループ現代／著、日本放送出版協会／発行、2000年、337工）参照



杉並区立中央図書館
2014年9月1日発行
2018年3月1日改訂
2020年12月1日改訂
(代表) 03-3391-5754